



Sensing tomorrow™

オムロンのCSR取り組み



オムロン株式会社

取締役室 CSR部

小嶋 進

本日お話しすること

■オムロンの企業概要

■CSRの基本的な考え方

■オムロンの企業理念

■企業理念の実践の歴史

■CSR部門の役割

- 企業理念のグループ内浸透活動
- CSR実践訴求（SRIアンケート）

企業概要

社 名

オムロン株式会社

創 業

1933年(昭和 8年)5月10日

設 立

1948年(昭和23年)5月19日

資 本 金

641億円(2012年3月末現在)

売 上 高

6,195億円(2012年3月期・連結)

営業利益

401億円(2012年3月期・連結)

従業員数

オムロングループ 35,992人

（ オムロン株式会社 4,245人

国内子会社 7,283人

海外子会社 24,464人

(2012年3月末現在)

事業別売上高構成比

■ 健康・医療機器事業



■ 社会システム事業



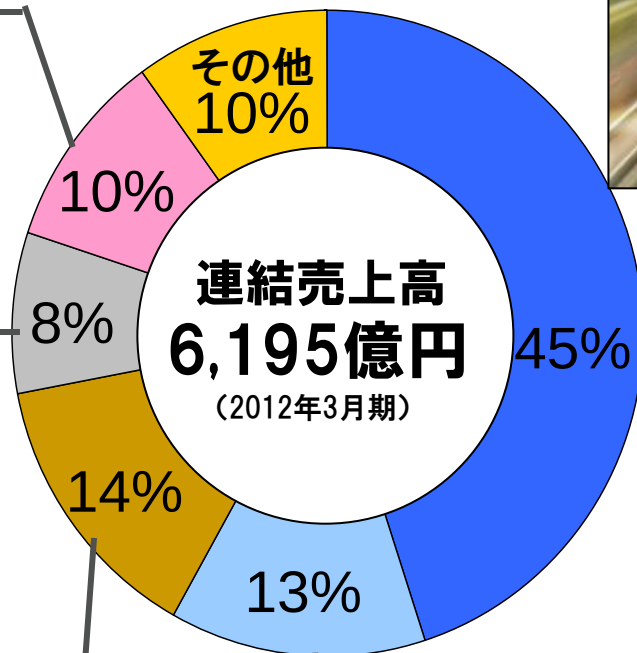
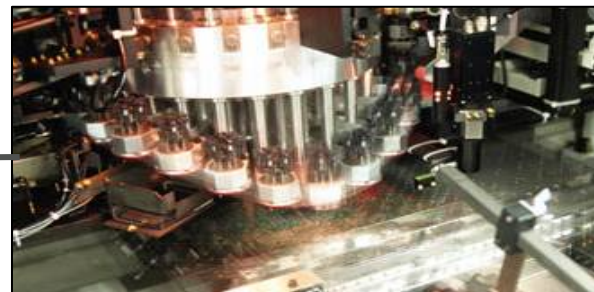
■ 自動車用電子部品事業



■ 工場自動化用制御機器事業

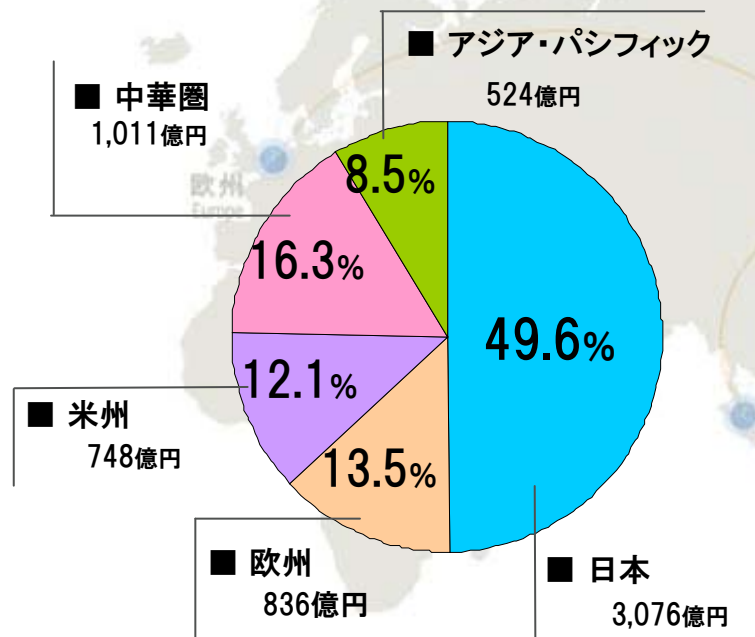


■ 家電・通信用電子部品事業



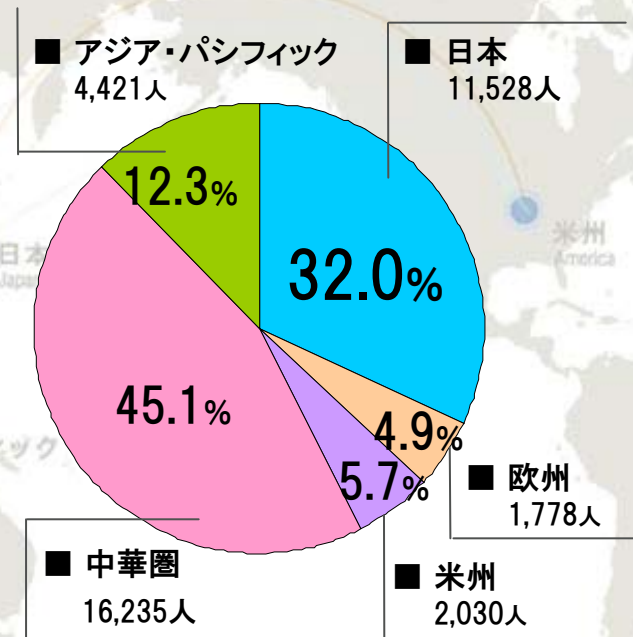
地域別売上高比率・従業員数比率

地域別 売上高比率



オムロングループ
6,195億円
(2012年3月期)

地域別 従業員数比率



オムロングループ
35,992人
(2012年3月末現在)

本日お話しすること

■オムロンの企業概要

■CSRの基本的な考え方

■オムロンの企業理念

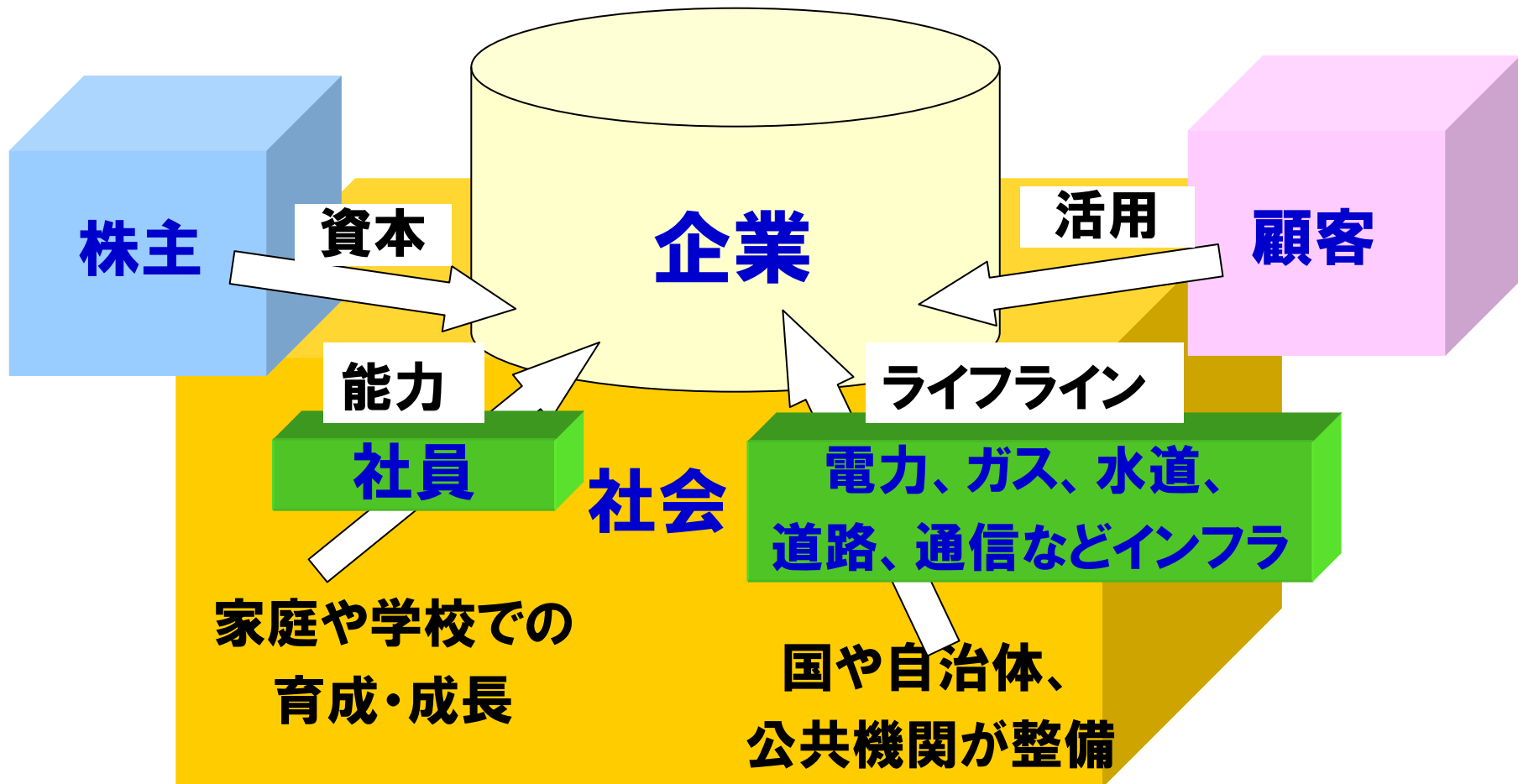
■企業理念の実践の歴史

■CSR部門の役割

- 企業理念のグループ内浸透活動
- CSR実践訴求（SRIアンケート）

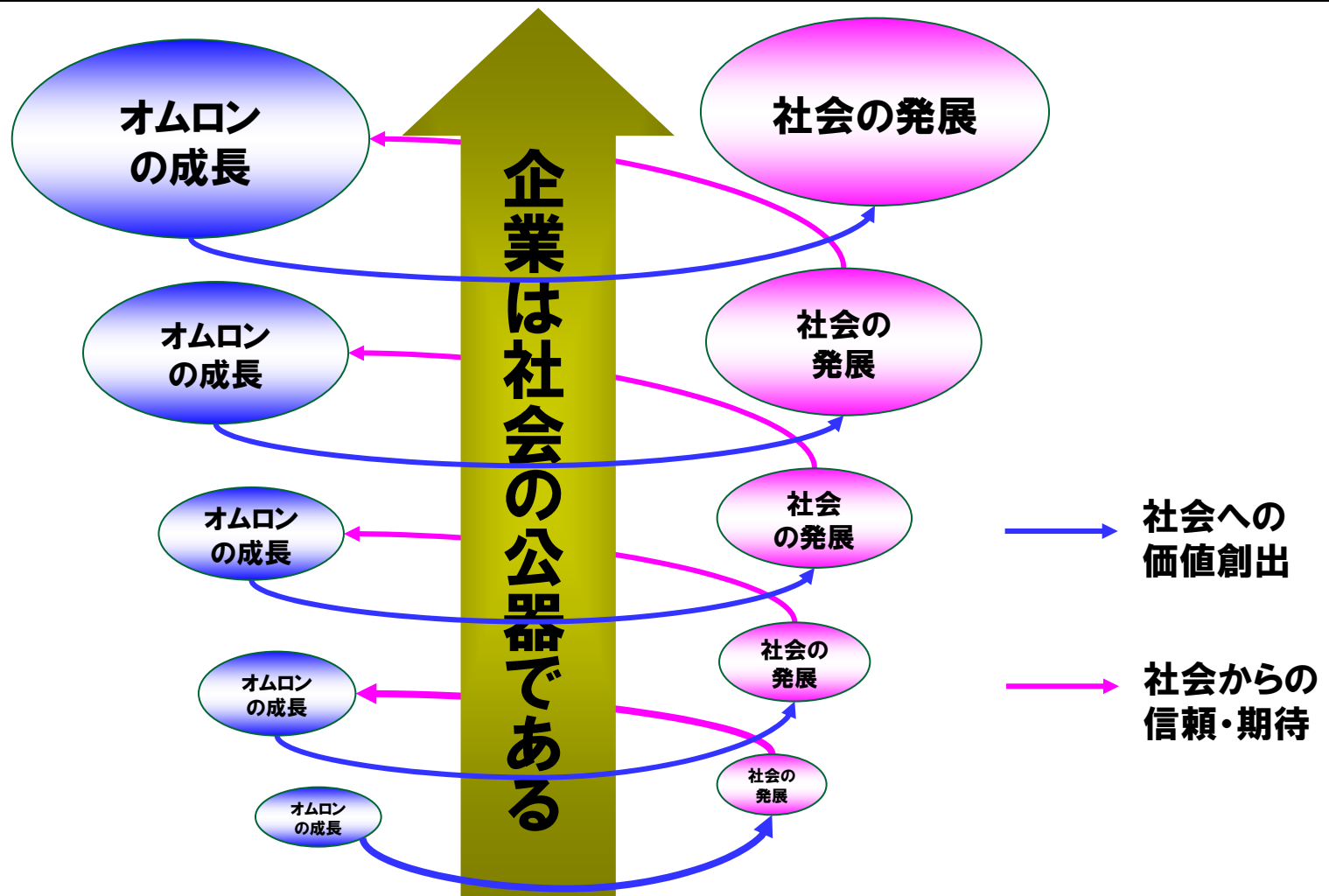
会社は誰のものか

- ・企業が活用する経営資源は、「社会からの預かりもの」
- ・企業は「社会から支援を受け」、「社会に生かされる」



社会の公器を核としたオムロンのCSR

オムロンでいうCSRとは「企業は社会の公器である」という基本理念の実践である。
オムロンにおいては、社会と企業が共存共栄し持続的に発展することがあるべき姿としており、この達成につながる全ての活動をCSRと呼ぶことができる。

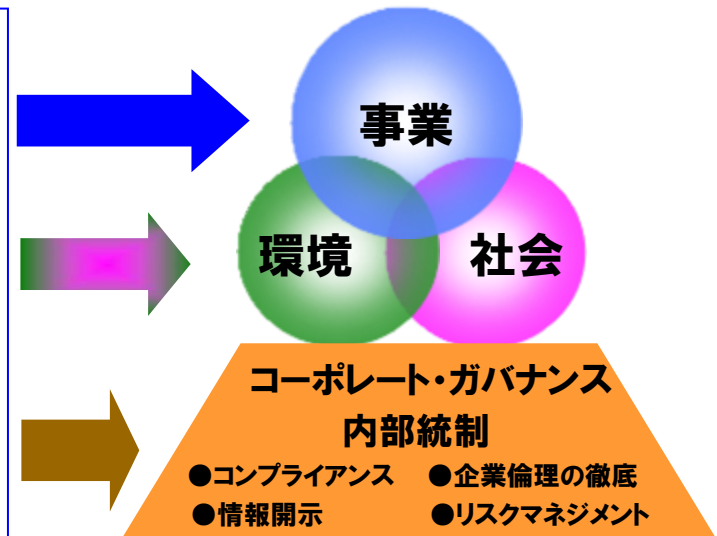


CSR取り組みの基本方針とフレームワーク

CSR視点を踏まえて事業を推進していくことを宣言

CSR取り組みの基本方針

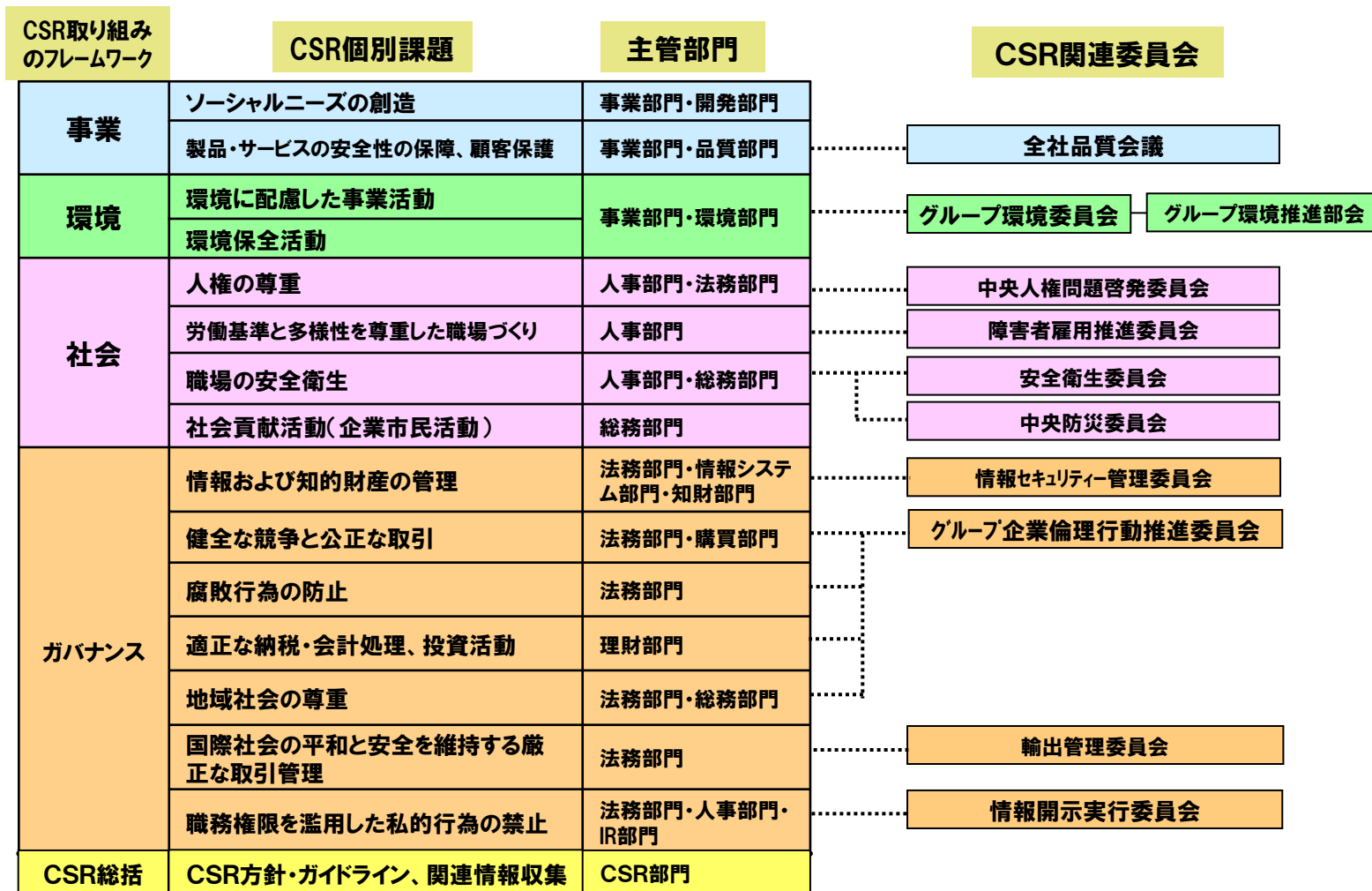
1. 事業を通じてよりよい社会をつくること
2. 社会が抱える課題に当事者として自ら取り組むこと
3. 企業活動を進める上で、常に公明正大であること



CSR取り組みの
フレームワーク

CSR課題の取り組み体制

CSRマネジメント体制図は廃止されるが、CSR課題への取り組みは今までと同様に推進する。以下のとおり、取り組みのフレームワークにそってCSR個別課題を明確にし、担当主管部門や関連CSR委員会を中心に、グループ全体でCSRに取り組む。



本日お話しすること

■オムロンの企業概要

■CSRの基本的な考え方

■オムロンの企業理念

■企業理念の実践の歴史

■CSR部門の役割

- 企業理念のグループ内浸透活動
- CSR実践訴求（SRIアンケート）

オムロンの社憲と企業理念

オムロンの経営・事業の活動の歴史は、今から53年前の1959年に創業者・立石一真が定めた社憲が原点となっています。その精神は「企業の公器性」にほかなりません。以来、オムロンの経営や事業活動はこの精神で展開されています。企業理念は1990年に制定され、以来2回の改定を経て、2006年5月に現在の企業理念となりました。基本理念には社憲の精神である「企業の公器性」を直接的に表現した「企業は社会の公器である」を据えました。

社 憲

われわれの働きで
われわれの生活を向上し
よりよい社会をつくりましょう

基本理念

企業は社会の公器である

経営理念

- ・チャレンジ精神の発揮
- ・ソーシャルニーズの創造
- ・人間性の尊重

経営指針

- 個人の尊重
- 顧客満足の最大化
- 株主との信頼関係の構築
- 企業市民の自覚と実践

行動指針

- 品質第一
- 絶えざるチャレンジ
- 公正な行動
- 自律と共生

企業理念とCSR

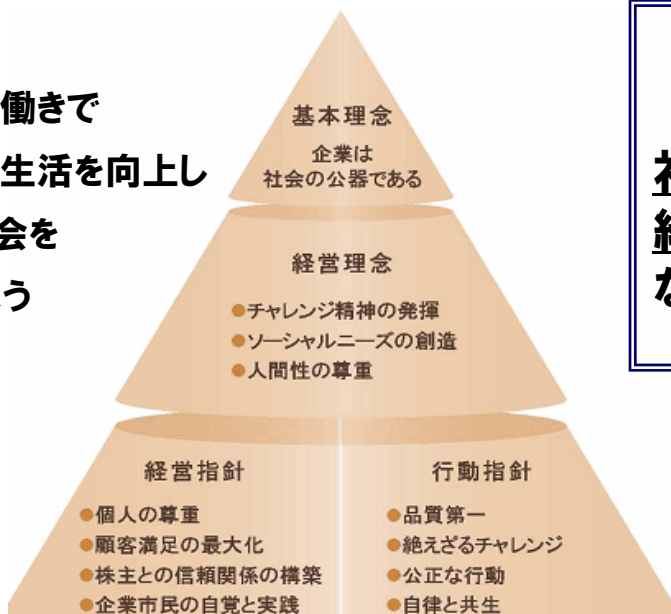
「CSRを実践することは企業理念を実践することにほかならない」

「オムロングループCSR行動ガイドライン P1」より抜粋

社 憲

企業理念

われわれの働きで
われわれの生活を向上し
よりよい社会を
つくりましょう

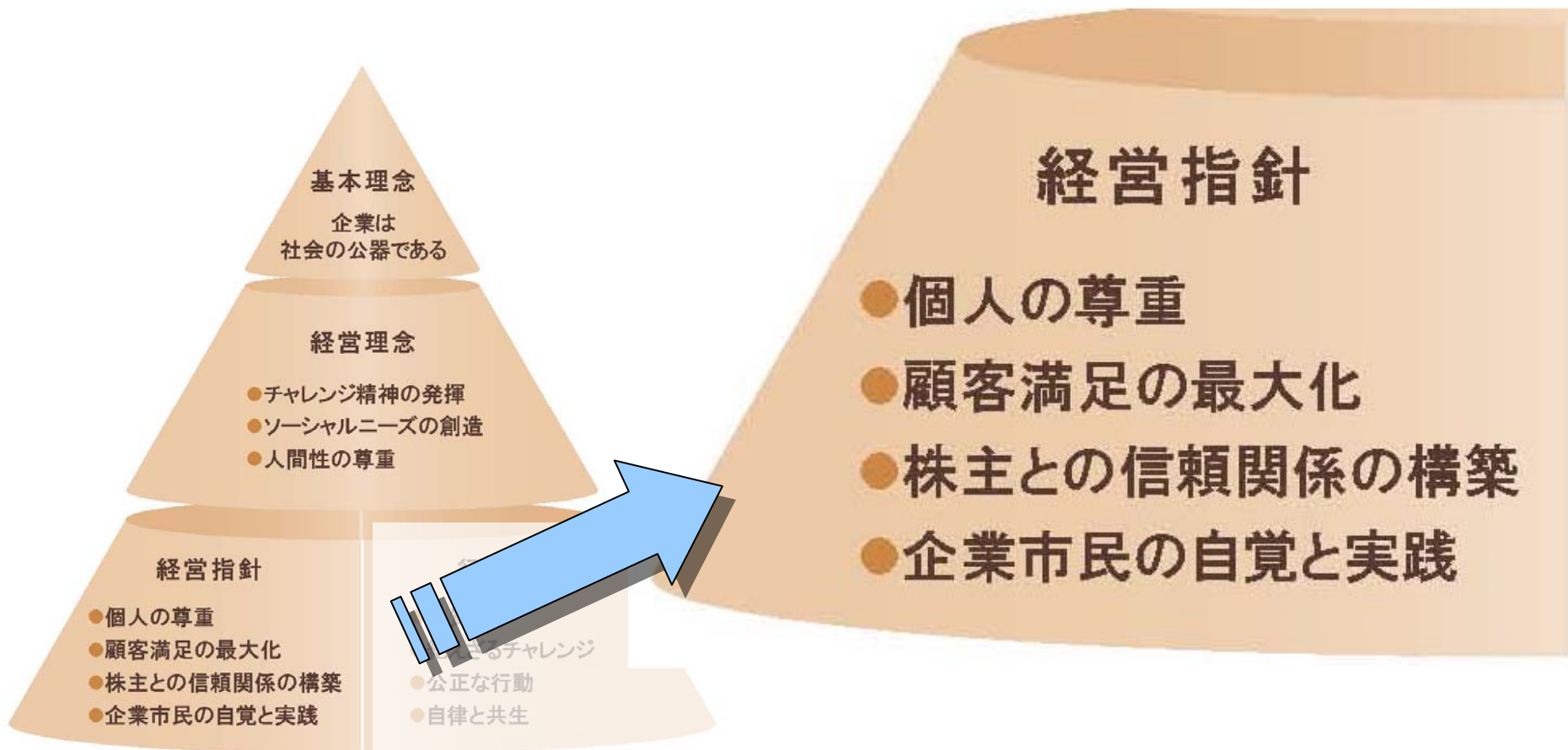


＜CSRの基本方針＞

社憲と基本理念の精神を基本に置きながら、経営指針に示したステークホルダーとの誠実な対話と信頼関係を重視する経営を目指す

経営指針

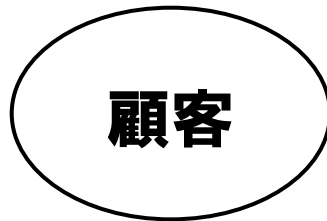
ステークホルダーとの誠実な対話と信頼関係の構築を重視した経営を行うことを「経営指針」として宣言



ステークホルダーを重視する経営

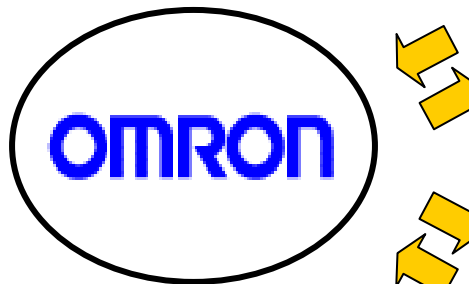
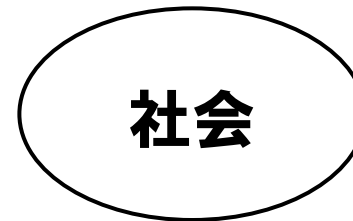
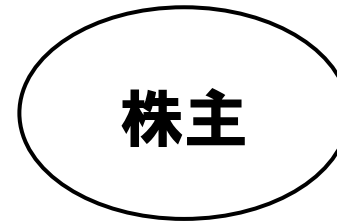
●個人の尊重

一人ひとりの社員の個性と多様性を尊重し、自律する社員を支援し、活躍の場と働き甲斐を提供する。



●株主との信頼関係の構築

企業価値を高め、利益を適正に還元することで株主の期待に応え、長期的信頼を得る経営を目指す。



●顧客満足最大化

品質第一を基本に、世に先駆けた製品・サービスを提供し、顧客満足の最大化を図る。

●企業市民の自覚と実践

国際社会の一員として、地域社会の経済・文化の発展に貢献するとともに、資源保護や環境保全に取り組む。

企業理念冊子

オムロングループ 社憲・企業理念

未来から選ばれる企業をめざして

OMRON
Sens

企業理念

基本理念
企業は
社会の公器である

経営理念

チャレンジ精神の発揮
ソーシャルニースの創造
人間性の尊重

基本理念

企業は社会の公器である

経営理念

- チャレンジ精神の発揮
- ソーシャルニースの創造
- 人間性の尊重

経営指針

グループは、公正で透明性の高い経営を
ステークホルダーと誠実に対話し、
目指します。

行動指針

オムロングループを構成する個人と組織は、「企業は社会の公器である」との自覚をもって質の高い行動を心がけ、「自己の成長」と「事業の発展」を追求します。

● 品質第一

提供する製品・サービスの品質はもとより、あらゆる仕
の質を高める努力を続けます。

行動指針

オムロングループを構成する個人と
「企業は社会の公器である」との自
質の高い行動を心がけ、
「自己の成長」と「事業の発展」を

● 品質第一

提供する製品・サービスに
高める努力を続けます

● 絶えざる挑戦

「高い価値」を創造し、
い価値を創造し、

● 公正な競争

責任感と良識を
親をもって行動し

● 自律と共

自らの意思で
を活かしながら

● 顧客満足の

品質第一を
満足の最

● 個人の尊重

一人ひとりの社員の個性
援し、活躍の場と働き

経営理念

- チャレンジ精神の発揮
- ソーシャルニースの創造
- 人間性の尊重

経営理念は、基本理念に基づいて
活動の重要な価値観です。

チャレンジ精神の発揮

オムロングループは、自らを「永
け、あくなきチャレンジを重視して
企業活動において、現状に甘ん
んじて成果を追求する「チャレ
るためには不可欠だと確信して

ソーシャルニースの

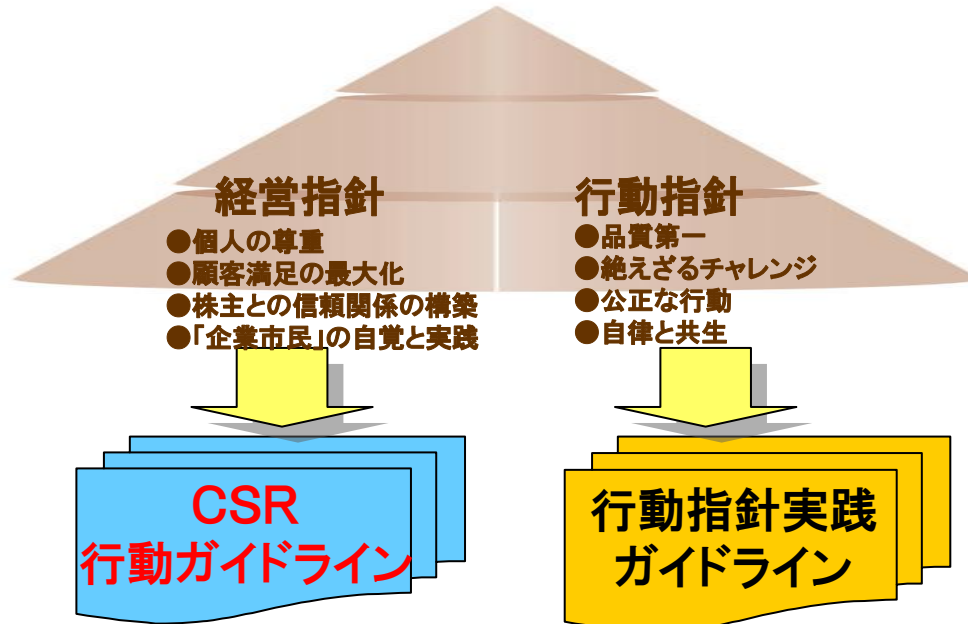
オムロングループは、固有の
「ソーシャルニースの創造」
「人間と機械」が調和しな
を取り組みます。「ソーシャ
を感知することにより、暮ら
解決する製品・サービスを

人間性の尊重

オムロングループは、

理念冊子を
世界25言語で発行

CSR行動ガイドライン



オムロングループの各組織が社会に対して責任を果たすために実践すべき行動規範

■組織活動において実践し、守るべきルール
（「すべきこと」と「すべきでないこと」）

■従来の「企業倫理行動ガイドライン」を
ベースに領域をCSR全般に拡大

社員一人ひとりが日常の業務の中で実践を期待される行動を具体的に示したもの

■仕事に取り組む上で推奨される価値観と行動

■「行動指針」の理解を促し、自発的な行動目標
の設定や、その実践・習慣化を促進

本日お話しすること

■ オムロンの企業概要

■ CSRの基本的な考え方

■ オムロンの企業理念

■ 企業理念の実践の歴史

■ CSR部門の役割

- 企業理念のグループ内浸透活動
- CSR実践訴求（SRIアンケート）

起業家マインド・チャレンジ精神の発揮



左:立石電機製作所 創業当時（大阪・東野田、1933年）
右:創業商品のレントゲン写真撮影用タイマ

チャレンジ精神の発揮

オートメーション事業への進出



▲1953年、立石一真は視察団に参加し、米国のオートメーションの進展を目の当たりにする。帰国後、すぐさまオートメーション機器の開発を指示



▼世界で初めて、トランジスタによる無接点近接センサを開発。
(1960年)



ソーシャルニーズの創造

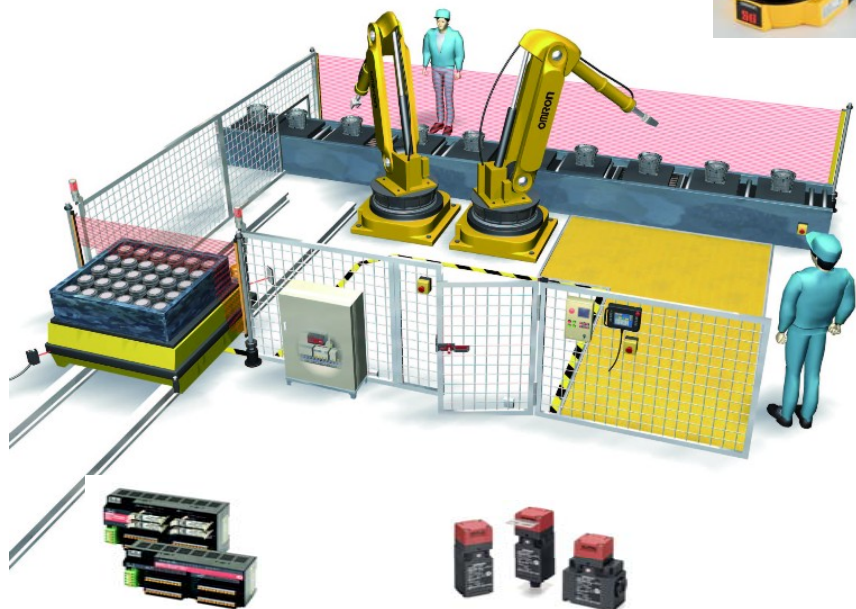
インダストリアルオートメーション事業

生産現場における生産性・効率性の向上をはじめ、
「品質」「安全」「環境」など幅広い領域でお客様の
ニーズに応える



◆安全性の追求

人々を危険な作業環境から解放



セーフティ機器



ソーシャルニーズの創造

自動改札装置・現金自動預金支払機



▲自動券売機、自動改札装置による世界で初めての無人駅システムを実現（1967年3月）

▲自動改札装置が、IEEE(The Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc.)の「マイルストーン賞」を共同受賞



米国のオートマチック・キャンティー社の▲要請に応じて、「クレジットカード用自動販売機システム」の開発に成功（1965年）

IEEEマイルストーン賞

マイルストーン賞は
歴史的偉業に対して
認定される賞



IEEE Chair of History Committee Mr. Richard Gowen

オムロン 作田久男 社長

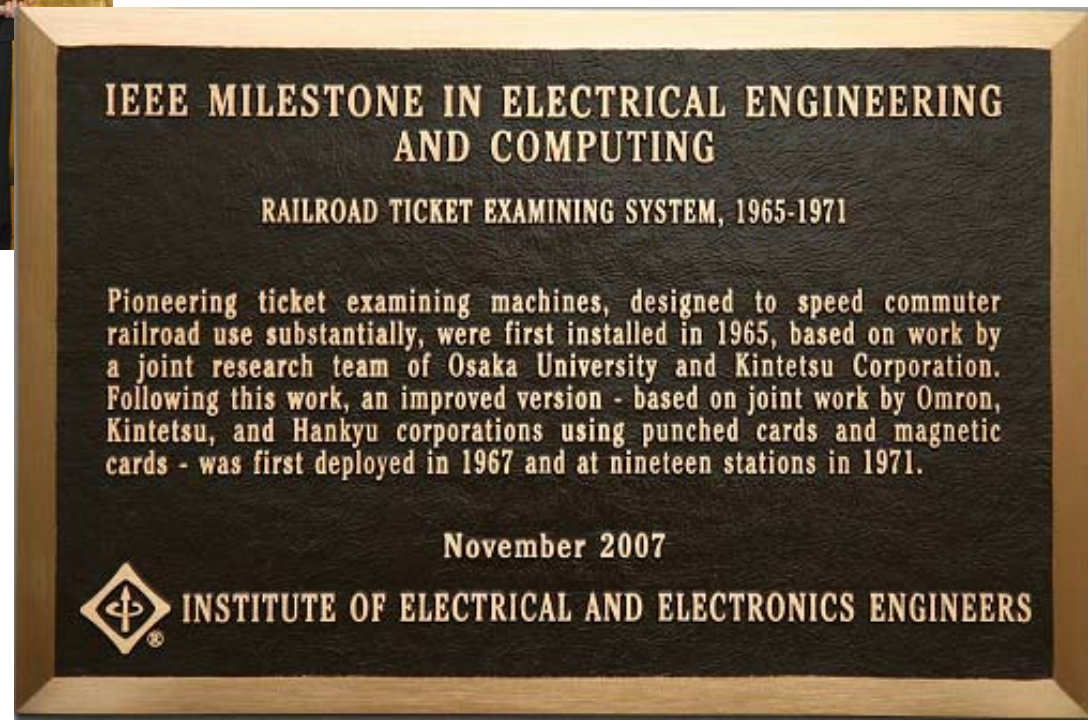
大阪大学 西尾章治郎 副学長

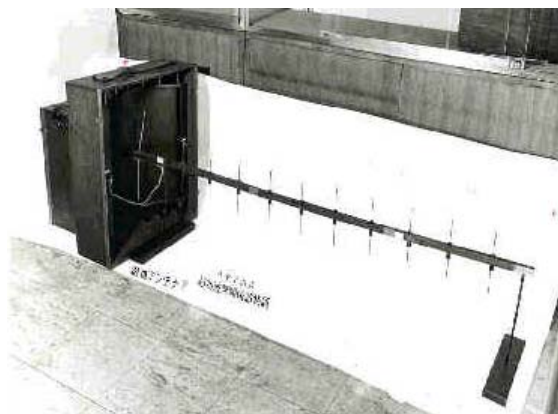
近畿日本鉄道 小林哲也 社長

阪急電鉄 角 和夫 社長

2007年11月27日

シェラトン都ホテル大阪





1995年 八木・宇田アンテナ
(東北大学)



2000年 富士山頂レーダー
(気象庁)



2000年 東海道新幹線
(JR東海)

歴史的偉業に対して認定する賞で、これに認定されるためには
25年以上に渡って世の中で高く評価を受けてきた必要がある。



2004年 セイコークォーツ
(セイコー)



2005年 電子式卓上計算機
(シャープ)



2006年 VHS
(日本ビクター)

ソーシャルニーズの創造

交通管制システム



▼交通の流れをスムーズに制御する
都市交通管制事業に参入。
交通事故の減少と渋滞緩和による
排気ガス削減に貢献。

▲1964年4月、世界初の全感応式
電子信号機を京都市内に設置。
交差点の通過車両数を検出し、
信号機の最適交替制御を実現。

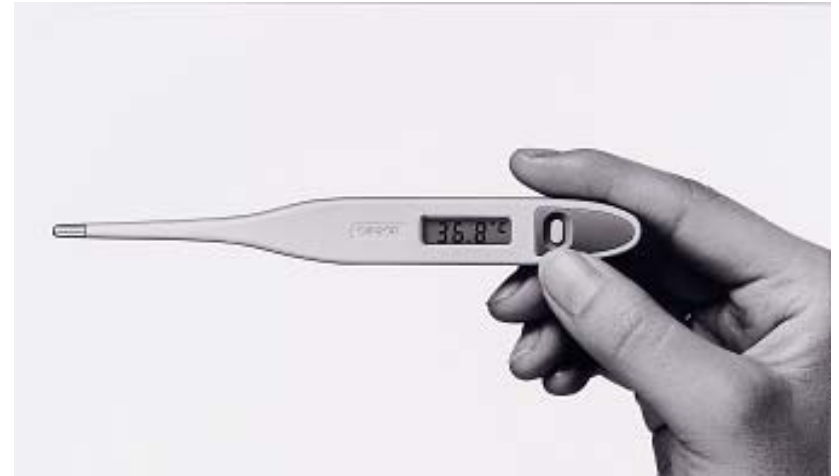


ソーシャルニーズの創造

ヘルスケア事業



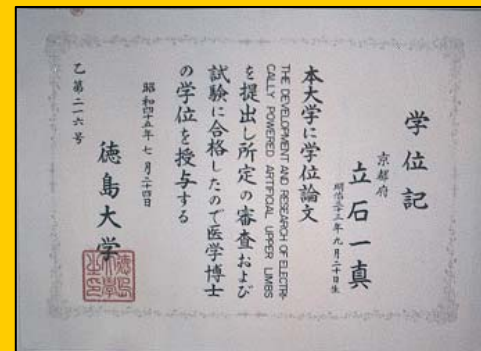
▲健康管理のために、家庭での血圧測定を普及させることになった自動血圧計



▲従来の1 / 3の価格を実現し、爆発的に普及した電子体温計「けんおんくん」



サロマイド児用電動義手



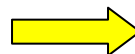
徳島大学からの
医学博士の学位

ソーシャルニーズの創造

健康医療機器・サービス

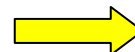
「いつまでも健康で長生きをし、すこやかで豊かな生活を楽しむ」そんな社会の実現に貢献

血圧計



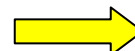
高血圧治療の医師へのサポートや個人の健康づくり

心電計



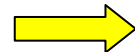
早期治療のための医師へのサポート

体組成計



外見でわからない体年齢を判定、年齢に適した体バランスを手に入れ生活習慣病を予防、個人の健康作りや医療費の抑制

医療用血圧脈波検査装置



動脈硬化のデータを医師へ提供、的確な治療

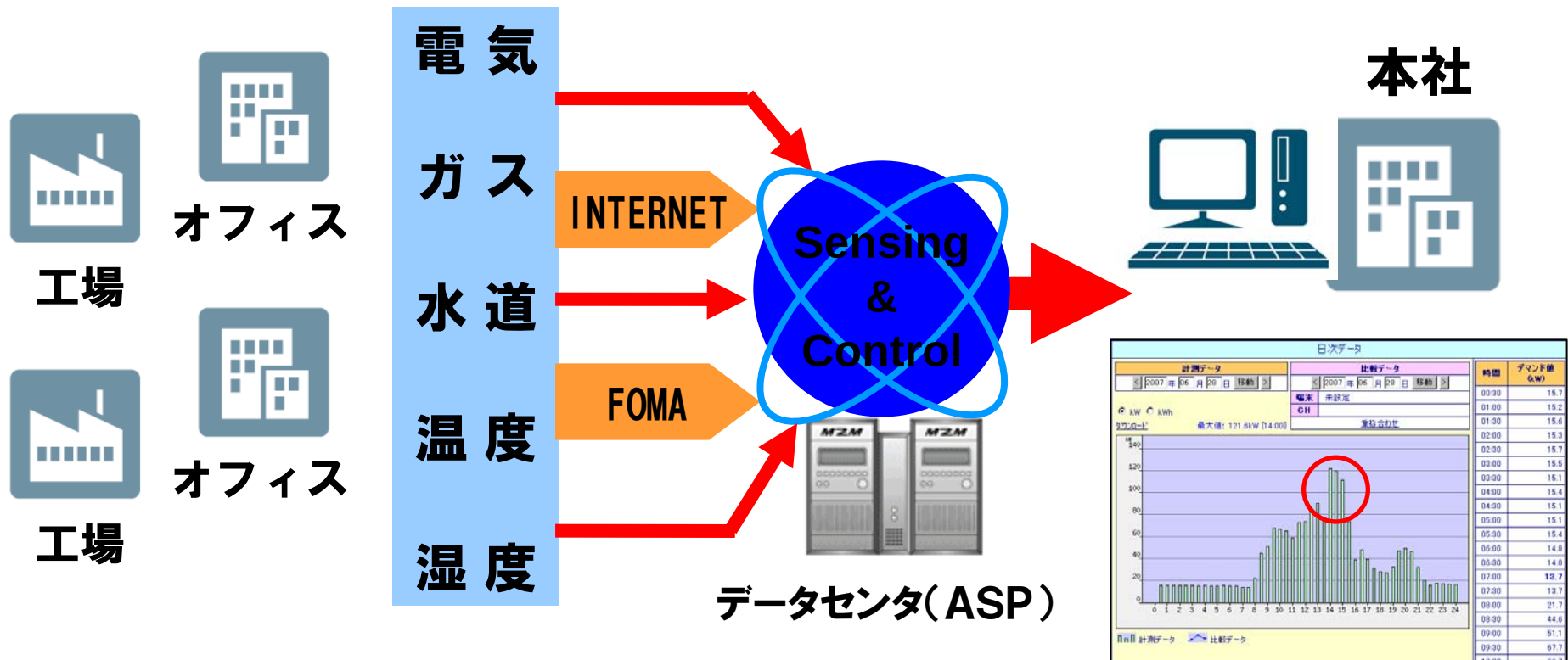
ソーシャルニーズの創造

環境事業

組織内各拠点の使用エネルギーを「見える化」し、最適管理を実現する
「エネルギーマネジメントシステム」

工場やオフィスに設置された
センサがエネルギーをセンシング

各拠点のエネルギー使用状況を
把握し、設備の稼動を一元管理



ソーシャルニーズの創造

環境事業

環境対策や省エネニーズに応えるソリューションとして、目に見えない使用エネルギー量を「見える化」し、一元管理することで、企業や施設の効率的なエネルギーマネジメントに貢献。



下がるとうれしい
成績があります。

いつもは上がるとうれしい成績、しかし中には例外があります。たとえばエネルギーの使用量。設定した目標を下回るほど、成果につながります。使ったエネルギー量が見えれば、ムダ遣いに気付くことができる。子どもたちに環境意識も芽生え、身近なところで自ら行動してくれる。オムロンはそう考えました。

オムロンは、独自のセンシング&コントロール技術を駆使し、電力、ガス、水道などのエネルギーの消費量を細かく計測管理するエネルギー消費監視システムを開発。エネルギー消費の「見える化」を実現しました。工場、商業施設や学校などのエネルギー消費をリアルタイムで監視。さらに収集したデータを分析、加工したうえで、ユーザーのパソコンや携帯電話に伝達します。エネルギー消費の「見える化」により、ムダやムラが気付き、より効率的なエネルギーマネジメントが可能です。

このシステムはすでに京都市立の全ての小・中・高等学校と幼稚園と幼稚園に導入され、さらに全国の様々な施設に広がっています。地球の明日のために。

安心をカタチに 検索

オムロン株式会社 コーポレートコミュニケーション部 TEL: 03-5447-7175 広告に関するお問い合わせ TEL: 03-5438-7138 www.omron.co.jp

Sensing tomorrow™ OMRON



京都市立の全ての小・中・高等学校と幼稚園283施設に導入
(全校で8億円(2006年度)の電気代のうち4000万円を削減)
2010年2月京都市教育委員会様と共に「経済産業大臣賞」を受賞

AICOT®搭載パワーコンディショナ

オムロンでは、NEDOの事業委託を受け、2002年より群馬県にある「Pal Town 城西の杜」にて、「集中連系太陽光発電システム実証研究 ※」を実施してきました。住民協力の元進められたこの研究では、多数台連系における単独運転防止として「AICOT®」を確立。総数553戸、総発電量 2,129kWという世界でも最大規模の集中連系を実現しました。

国内の住宅用太陽光発電システムの設置件数は、今年4月末までに100万件(*)を突破しました。

(*)一般社団法人太陽光発電協会(JPEA)調べ



群馬県太田市「Pal Town 城西の杜」

※NEDOの委託事業として、株式会社関電工が受託しました。

単独運転技術については当社が再受託し、当技術を開発・提供しています。



パワーコンディショナ

身体に障害を持つ人の雇用や支援強化

オムロン太陽の創業



中村 裕先生

‘No charity, but a chance !’

1971年

障害者が働ける安定した職場が欲しい

その為には企業の協力が必要

太陽の家創設者中村先生が

オムロンの創業者立石一真に協力を要請

身体障害者のための工場を設立

1972年

太陽の家との合併で、障害者のための工場

オムロン太陽(株)(大分県別府市)設立

1986年

オムロン京都太陽(株) (京都市)設立



立石一真

身体に障害を持つ人の雇用や支援強化



日本初の身体障害者のための工場
「オムロン太陽」 (1972年～)
「オムロン京都太陽」(1986年～)



大分国際車いすマラソン大会

東日本大震災への対応

寄付以外にも、グループ企業が事業を通じた支援活動を実施しました



健康・医用事業の現地支援
(オムロンヘルスケア&オムロンコーリン)



交通信号機の復旧作業
(オムロンフィールドエンジニアリング)



ATMの回収作業

本日お話しすること

■オムロンの企業概要

■CSRの基本的な考え方

■オムロンの企業理念

■企業理念の実践の歴史

■CSR部門の役割

- 企業理念のグループ内浸透活動
- CSR実践訴求（SRIアンケート）

企業理念の共有活動（2007～08年）

■地 域：東南アジア・北米・欧州・中華圏・日本

■回 数：海外23回＋日本12回

■説明者：取締役

■対 象：マネージャークラス以上

■形式：講演形式

■参加数：約3,000人



フランス・パリ



アメリカ・シカゴ



インドネシア・ジャカルタ

企業理念の共有活動（2011～12年：実施中）

■地 域：東南アジア・北米・欧州・中華圏・日本

■回 数：海外36回＋日本3回（含、計画分）

■説明者：会長、副会長

■対 象：幹部クラス（数名～10名/回）

■形式：ディスカッション形式（3時間）

■参加数：約350人



韓国・アンソン



アメリカ・シカゴ



オランダ・アムステルダム

「誠実な企業」賞 最優秀賞を受賞

